

# TDWI ベストプラクティスに関する報告: Achieving Greater Agility with Business Intelligence (ビジネス インテリジェンスで 俊敏性を改善)

## 課題:

企業間競争の圧力や経済のグローバル化が、ビジネス インテリジェンス (BI) やアナリティクスへの需要を後押ししています。しかし、アナリティクスに不可欠なデータを提供すべきビジネス インテリジェンス システムは、こうした流れに後れをとっています。アナリティクス システムやデータ ウェアハウジング システムを設計/実装する責任のある担当者は、データ ガバナンスとパフォーマンスの安定を確保しつつ、エンドユーザーがセルフサービス機能を利用できるようなモデルに移行しなければなりません。TDWI の調査に基づく本レポートは、どうすれば BI の俊敏性を改善できるかについて説明しています。

## 解決策:

多くの企業が、アジャイルな開発アプローチを導入して、ユーザーと IT 開発者間の密接なコラボレーションを実現しています。こうした企業は、反復的な開発サイクルによって徐々に価値を高めています。

こうした俊敏性を実現するためのテクノロジーはすでに用意されています。以下はその例です:

- ユーザー自身がデータ検索できるようなビジネス インテリジェンス/データ ディスカバリ ツール
- 構造化データ、半構造化データ、非構造化データを結合し、統一的な情報アクセスとデータ統合を実現できるミドルウェア
- 複数のデータソースから使えるデータに迅速にアクセスできるデータ仮想化ツール

## 推奨事項:

### 俊敏性を高めるための 6 つのステップ

1. ユーザー自身がデータ エクスペリエンスを変更できるようなセルフサービス オプションを増やす。
2. ユーザーの分析能力を高められるように、データの双方向性と検索機能を強化する。
3. 技術的な知識のないユーザーでも利用できるように、データの視覚化とビジュアルな分析機能を提供する。
4. モバイル デバイスを利用するユーザーが、ビジネス インテリジェンスやアナリティクスを俊敏に利用できるように対応する。
5. 情報へのアクセスをコントロールするテクノロジーやプラクティスを活用して、複数の情報タイプへのアクセスを統合する。
6. データの仮想化テクノロジーを使用して、データアクセスをスピード化し、データの多様性に対応する。

詳しくは、「[TDWI ベストプラクティスレポート: Achieving Greater Agility with Business Intelligence](#) (英語) の全文をダウンロードしてください。

〒 162-0845 東京都新宿区市谷本村町 1-1 住友市ヶ谷ビル 13 階 電話: 03-5229-7211 (代表) FAX: 03-5229-7623  
[www.informatica.com/jp](http://www.informatica.com/jp) [linkedin.com/company/informatica](https://www.linkedin.com/company/informatica) [twitter.com/InformaticaCorp](https://twitter.com/InformaticaCorp)

© 2015 Informatica Corporation. All rights reserved. Informatica® および Put potential to work™ は、米国およびその他の国における Informatica Corporation の商標または登録商標です。その他全ての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。